

COUNTRY RISK WEEKLY BULLETIN

29 July, 2009

IN THE HEADLINES



インド

インド中央銀行(RBI)は7月28日、やや楽観的な景気見通しを背景に政策金利を据え置いた。09年第1四半期のGDP成長率が予想を上回ったほか、鉱工業生産指数や借入需要も回復している。インドでは農業部門はいまやGDP全体の17%(90年当時は約30%)を占めるにすぎないが、モンスーン(雨期)の遅れと降雨量の少なさから景気拡大が抑制されるとともに、食料を中心に国内価格が上昇すると予想される。とはいえ、09年のGDP成長率は5~6%に達すると予想している(政府見通しは7%)。一方で、健全な景気拡大とインフレ圧力の高まりから金融緩和政策は終盤に近づかぬかしくは終焉すると予想する。



韓国

09年第2四半期の実質GDP成長率(速報値)は前期比2.3%と第1四半期の同0.1%から伸びが拡大した。財政出動、金融緩和政策、輸出の回復が寄与した。個人投資は前期比2.8%増、民間設備投資は同2.9%増、輸出は同11.2%増、輸入は同8.8%増となった。第2四半期のGDP成長率は前年同期比ではマイナス2.5%となったが、第1四半期の同マイナス4.2%に比べマイナス幅は縮小した。下期も徐々に景気回復は続くと考えられるが、引き続き厳しい輸出環境と経済全体の不透明感から下振れリスクは残っており、より急速な景気回復を阻む恐れがある。09年通年のGDPはマイナス1~2%と予想する。2010年は小幅のプラス成長にとどまる公算が大きい。



ボスニア・ヘルツェゴビナ

ここ数週間、退役軍人への恩給削減問題で揺れていたボスニア・ヘルツェゴビナだが、IMFは同国に対して期間36カ月、総額15億7000万ドルのスタンドバイ融資を供与することを承認した。為替レートの下支え、財政の強化、対外支払いと銀行の流動性の確保が狙い。政治面の話に移ると、同国はボスニア・クロアチア連邦とスルブスカ共和国の2つから構成される連邦国家だが、ボスニア・クロアチア連邦では5月に首相を辞任したNedžad Brankovic氏に代わってMustafa Mujezinovic氏が首相に任命された。スルブスカ共和国は先頃、一部の法律を無効にしたボスニア・ヘルツェゴビナ上級代表のヴァレンティン・インツコ氏と緊張関係にある。



南アフリカ

公共サービスを停止しに追い込んでいた全国ストを終結すべくSALGA(南ア地方自治体協会)は地方自治体の労働者に対する賃上げ案を10.5%から13%に上方修正した。一方、雇用統計によると、09年第2四半期に26万7000人が失業しており、失業率は23.6%に達した。同国は05~08年の間に年平均4.6%の成長を記録してきたが、09年は1~2%のマイナス成長に陥ると予想する。ただし、公共投資と2010年W杯サッカー開催に伴う外貨流入により2010年のGDP成長率はおおよそ3.5%押し上げられると予想する。また、賃上げ要求や業界を挙げてのアクションなどの社会不安は今後も続くと思われる。

ALSO IMPORTANT...



ナイジェリア

イスラム系武装組織が政府ビルを襲撃したのを受けて政府は北部諸州での治安部隊を強化した。同国の産業・金融の中心はキリスト教徒が多数派を占める南部にあるが、イスラム教徒が圧倒的に多い北部では貧困、失業、脆弱なサービスから緊張が高まっている。一方、石油資源が豊富なニジェール川デルタ地帯の分離主義ゲリラや犯罪組織は武装活動を続けており、石油の産出量は目減りし、政府収入は減少している。世界の石油需要も低迷しており、GDP成長率は09年、2010年と2~3%(05~08年の年平均成長率は5.8%)にとどまると予想する。



イラン

異議申し立てを受けた大統領選後、最高指導者アヤトラ・アリ・カメネイ師はマフムード・アフマディネジャド大統領への支持を示した。しかし、同大統領が任命したモシャイ第1副大統領の人事をカメネイ師が撤回するよう求めるなど両者の緊張関係が表面化している。同大統領はただちにモシャイ氏を上級顧問に任命、そして内閣2大臣を解任した。神政主義者、政府、改革派、保守派の間の力関係は希薄化しており、不透明感が高まっている。米国との対話に関して進展は見込めそうにない。

COUNTRY REVIEW SUMMARIES



エストニア

景気拡大期を経て同国経済はハードランディングに陥っており、現在は深刻な景気後退の真っ只中にある。09年の実質GDPはマイナス10%を予想する。經常収支の大幅赤字、高インフレ、過剰な信用拡大などマクロ経済の深刻な不均衡はすでに縮小しているものの、依然として経済的リスクは大きい。当局は為替レートの維持と、賃下げや財政収縮などによる経済調整に取り組んでいる。これまでのところ成功は収めているものの、ラトビアが大幅な通貨切り下げに踏み切る可能性があり、その余波がエストニアまで及ぶ恐れも無視できない。



ベトナム

景気過熱に伴う対外収支の不均衡と高インフレの是正が進められている。足元の成長率は潜在成長率を下回っている。世界的な金融危機の影響で輸出品の価格は急落しており、金融緩和への舵の切り換えを促している。09年上半年の実質GDP成長率は前年同期比3.9%を記録、第2四半期に大きく上向いた。景気回復は続き、09年の成長率は4.3%を確保すると予想する。しかし、財政赤字は対GDP比で12%に上昇する可能性があり、輸入需要の拡大や食料価格の上昇を再びあおる恐れがある。事実上のペッグ制である為替レートが依然、金融政策上の抑制要因となる。

IN BRIEF

キルギスタン

任期満了に伴う7月23日の選挙にて、現職のビシケク大統領が76%の得票で再選を果たした。

Edited by Andrew Atkinson

The content of the report (which is subject to change without notice) reflects only our opinion, which is based on information received by us. Accordingly no warranty, representation or other assurance is given as to the accuracy or completeness of the report. The report is for general information and is not intended to address any requirements you may have, for which you must obtain independent advice. The report does not constitute any form of advice, recommendation or arrangement by Euler Hermes UK plc or by the Euler Hermes Group of Companies and must not be relied upon in the making of any decision, agreement or arrangement. © Euler Hermes UK plc 2008.